

Information

『骨粗鬆症』調べてみませんか？

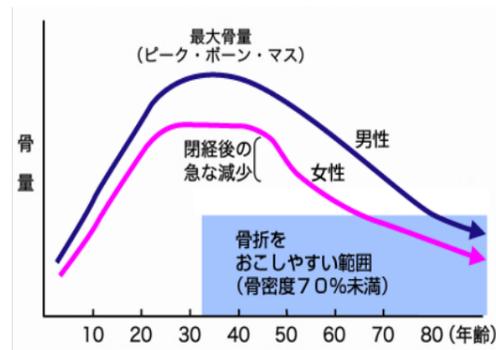
副院長、脊椎脊髄センター長 佐久間 吉雄
整形外科主任部長

2022年の日本での65歳以上の高齢者人口は3627万人と全人口の29.1%、3人に1人が高齢者で、世界第1位の超高齢社会となっています。人間の骨密度は30歳代がピークで、年齢とともに徐々に低下していきます(右図)。特に女性では閉経後にホルモンバランスの変化によって骨粗鬆症が進行します。骨粗鬆症を放置していると腰椎圧迫骨折(いつの間にか骨折)や大腿骨頸部骨折などの脆弱性骨折(転倒などの軽微な外傷で生じる骨折)が起こりやすくなります。そこで骨粗鬆症の診断に有効なのが、骨密度の計測です。

当院ではこれまでDXA(dual-energy X-ray absorptiometry)を用いて腰椎と大腿骨近位部を測定してきました。今回最新式のDXA装置を導入しましたので、紹介させていただきます。これにより全身の骨密度を短時間で測定でき、さらに今後は筋肉量を計測できるようになる予定です。

千葉市では40歳から70歳まで5年おきに骨粗鬆症検診を受けることができます。また、骨粗鬆症の治療薬は近年飛躍的に向上し、いろいろな薬が開発されています。骨粗鬆症をできるだけ早く治療できれば、圧迫骨折や、大腿骨頸部骨折を防ぐことができます。この機会にぜひ骨密度を測定してみたいはいかがでしょうか？

加齢による骨密度の変化



Horizon X線骨密度測定装置



●「千葉市骨粗鬆症検診」・「骨粗鬆症ドック」のお問い合わせ先：健康管理センター TEL043-232-9740

◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆

新年あけましておめでとうございます。昨秋は11月後半に当地でも20℃を超える日が続くなど、124年の観測史上で最も暖かい秋となりましたが、12月に入ると一転、大寒波が到来。各地で大雪の被害が続出し自衛隊へ災害派遣を要請する事態となりました。昨年2月のロシアのウクライナ侵略で欧州は深刻なエネルギー危機となり、世界的に不足するエネルギー資源を巡って各国で争奪戦が繰り広げられています。エネルギー自給率が低い日本はまさに渦中にいます。政府はこの冬(12/1～翌年3月末)家庭や企業に節電を求めています。重ね着をし、不要な照明を消し、必要なときだけ家電を動かす。など無理のない範囲での節電を実施しましょう。エネルギーを化石燃料に依存する日本にとってその利用を控えることはCO₂排出量削減にもつながります。未来の地球のためにも私たち一人ひとりの節電意識そして努力が必要です。



CCMC ニュース 82号
●今月の寄稿者・取材協力者
上原 広嗣 (診療部)
佐久間 吉雄 (診療部)
清水 千賀子 (事務部)
米良 尚美 (訪問看護ステーション加曽利)
＜編集＞ 広報委員会
<http://www.ccmc.seikei-kai.or.jp/>

◆当院へのご意見・ご要望は 総合相談サービスセンターにお寄せください。043-232-3691(代)

千葉中央 メディカルセンター

ニュース第82号 令和5年1月20日

＜理念＞「信頼と奉仕」 ＜基本方針＞

- 1.患者の権利を擁護し、公正な医療を実践します
- 2.教育・研修を推進し、医療の質の向上に努めます
- 3.信頼関係に基づいた安心・安全な医療を提供します
- 4.職員が喜びと誇りを持って働ける職場づくりを目指します
- 5.医療連携の充実を図り、地域の保健活動に貢献します

＜患者さまの権利と責務＞

人は病気になっても、人間としての尊厳が守られなければなりません。従って、医療を受けるにあたり、患者さまは以下の権利と責務があります。

- 1.自分の病気の事を知る権利/2.医療を受ける事を決める権利
- 3.安全が確保され現時点で最良の医療を受ける権利
- 4.意見や苦情を申し立てる権利/5.プライバシーが守られる権利
- 6.医療従事者と共に医療に参加し協力する責務

私たちは以上のことを尊重し医療を行います。

1面:(特集)消化器内科 2面:訪問看護ステーション加曽利 3面:入院患者アンケート調査報告 4面:Information

PICK UP 診療科

特集：消化器内科

診療部長 上原 広嗣
消化器内科部長

いつも当院の配布物に目を通して頂きありがとうございます。今回は目覚ましい進歩を遂げる消化管内視鏡についてお話致します。

当院の消化器内科は現在 常勤医8名、非常勤医4名の計12名で診療を行っております。消化器内科は対象となる疾患が非常に多く、食道・胃・小腸・大腸などに生じる消化管疾患や、肝臓・胆嚢・膵臓などに生じる病気に対しても積極的に治療を行っております。最新の内視鏡を用いた診断・治療は当院でも力を入れている分野の一つです。今回はそのうち①SpyGlass という胆道鏡と②AI (人工知能) 対応の内視鏡についてお話します。

①当院は市中病院では極めて珍しい”SpyGlass”という胆道鏡を有しております。

図1 SpyGlass Boston 社 HP より転載



胆汁の通り道である総胆管の診断・治療は内視鏡診断・治療の中でも難易度の高い手技であり、総胆管内にできた結石の処置や、胆管癌の診断は通常内視鏡では困難な場合があります。SpyGlass は通常の内視鏡の中から出し

入れできる直径3.5mmの細い内視鏡であり、今までは見ることでできなかった胆管内を直接観察することができます。また、総胆管結石を直接見ながら破砕することも可能です。総胆管結石や胆道癌などでお困りのことがありましたら、当院に連絡頂けると幸いです。

②当院では現在AI(人工知能)が搭載されている内視鏡を診断に使用しております。我々が今まで培ってきた経験に人工知能が加わるので、今まで判断が困難であった早期胃癌や早期大腸癌が早い段階で発見可能となります。具体的には、病変と思われる部位に内視鏡の先端を向けると、AIが自動的に「がん」か「がんではない」かを瞬時に判断します。その正答率は高く、感度は90%後半と報告されています。

図2 AI搭載内視鏡 富士フィルム社HPより転載



鑑別結果が腫瘍性の場合には黄色、非腫瘍性の場合には緑色を内視鏡画像の外縁に表示する。

医療はどんどん進歩しておりますので、当院はその流れに乗って地域医療の質の向上を目指して頑張っていきたいと思っております。「当院の消化器内科に受診して良かった」と感じて頂けるように日々精進しております。今後ともよろしくお願い致します。

訪問看護をご存知ですか？

訪問看護ステーション加曾利は、令和4年9月下旬より千葉中央メディカルセンター内に移転し、病院の機能の一貫として訪問看護をスタートさせました。現在、看護師5名、事務員1名で60人前後の利用者様の訪問看護を行っており、訪問看護を行う地域としては、若葉区を中心に、中央区や稲毛区まで訪問させて頂いております。

訪問看護の利用者は、現在、難病で寝たきりの方や人工肛門、膀胱留置カテーテルを入れている方、点滴を必要とされている方、そして老々介護や独居の方も多くみられ、多種多様となっております。

【訪問看護の主なサービス内容】

- 食事・トイレ・入浴などの介助・指導
- 在宅酸素・人工呼吸器などの管理
- 在宅リハビリテーション
- 点滴・注射などの医療処置
- 血圧・脈拍・体温などのチェック
- ターミナルケア
- 介護・認知症の相談
- 床ずれ防止のケア・指導

この様に処置のある方の在宅介護は大変ではありますが、我々訪問看護は24時間対応をしています。どんな時でも相談して頂き、必要であれば訪問もしています。その際も、病院や主治医の先生と連絡を取りながら必要な処置を行っています。どうしても分からない時、困ってしまった時、看護師さんが来てくれるので心強い。何でも聞く事が出来て安心というお言葉を聞く事が多くあります。また、人生の最期を住み慣れた我が家で過ごしたいと病院を退院され、家族と共に食事をしたりお酒を飲んだりしながら、家族に見守られ、穏やかに亡くなられた方もいらっしゃいます。苦しい中にも、生まれたばかりのひ孫とふれあい、満々の笑顔で撮ってあった写真は今でも忘れる事は出来ません。まだまだコロナ感染症が続いている状況であり、入院中は思うように面会が出来ません。在宅で過ごす事は家族も本人も大変な事有りますが、最期まで自分らしく生きる事が出来る場であると思えます。

訪問看護ステーション加曾利
所長 米良 尚美

また、独居の方でも介護ヘルパーなどのサービスを利用し生活されている方は沢山いらっしゃいます。



この度、千葉中央メディカルセンターの機能の一環として活動させて頂くことで、入院中や外来受診されている患者様に対しては、早い段階から現在の状態を把握し、地域連携室や病棟看護師とスムーズに連絡を取ることが可能になりました。入院患者様に対しては、訪問開始前の段階から状態や処置を把握する事で、在宅に戻られても入院中と同様の看護を受けることが可能になりました。急な退院でもスムーズに情報が得られる事で、臨機応変で迅速な対応を取ることが出来ます。また、外来患者様におきましても、スムーズな情報を得られる事で同様に対応する事が出来ます。これは、病院の中にある訪問看護ステーションならではの事だと思っています。

最後となりますが、病気でも家に居たいという方を、専門知識を持ってサポートするのが我々訪問看護師の仕事です。病気と共に在宅で過ごす方法を私達と考えてみませんか？訪問看護の利用を一度でも考えたのなら、どうか病棟看護師または地域連携室にお声を掛けて頂けると幸いです。



訪問看護ステーション加曾利の皆さん

入院患者 満足度アンケート調査結果 (要約)

当院では、入院患者さまの満足度に関するアンケート調査を毎年実施し、今後の医療サービスの向上を図るための参考資料として活用させていただいております。入院中の様々な検査・治療等ご多用にも関わらず、多くの方々にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

《 調査概要 》
対象：下記期間に入院されたすべての患者様
期間：2021年10月～2022年9月
回答数 194人
男性 121人、女性 62人、不明 11人
回収・集計：サービス向上委員会
監修：総合相談 SC 課長 清水 千賀子

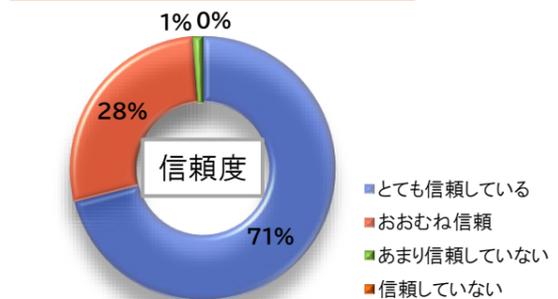
当院を選んだ理由 (複数回答)



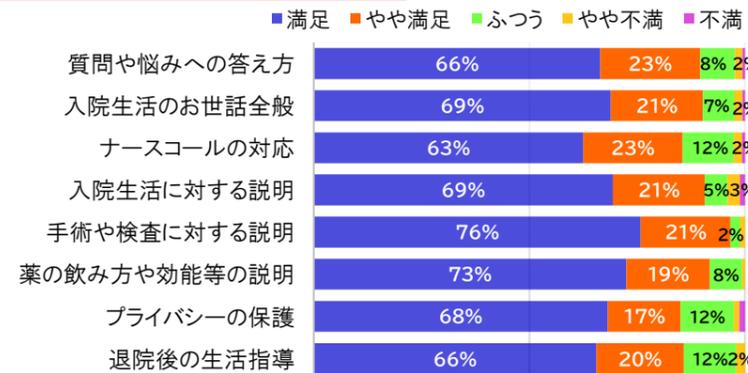
対象者年齢構成



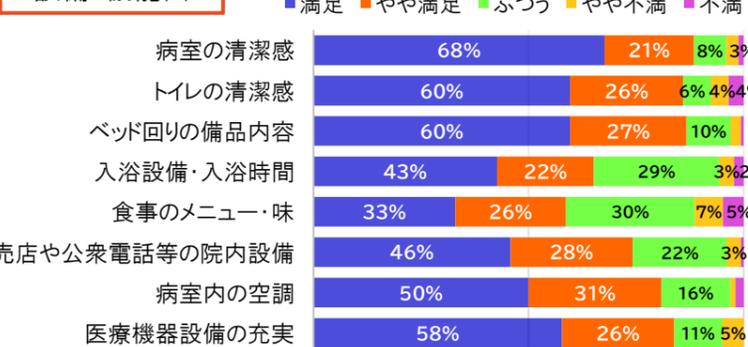
この病院を信頼していますか？



サービスや情報提供について



設備・機能面



満足度 (5段階評価)



【総括】

この度は、入院患者満足度アンケート調査にご協力いただきありがとうございます。今回のアンケートで皆様から激励の言葉やお褒めの言葉を数多く頂戴し、職員一同大きな励みになりました。また厳しいご指摘も複数ありました。引き続き皆様安心して受診できる環境づくりを目指して参りますので、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。なお、お待たせております Wi-Fi 設備につきましては、本年度中に使用可能になる予定でございます。皆様から頂きました貴重なご意見を参考に患者様が安心して入院、通院ができる病院を目指して今後も職員一同努力して参ります。

総合相談サービスセンター 課長 清水 千賀子